

2 [1] (19・20C、独) (『存在と時間』)

— 自分が現存在であることの自覚 → [2]への存在と

「自分ならではの」で「今だけ」

「どう生まれるかは選べないが、どう死ぬかは選ぶことができる」

[3]内存在であることの自覚

「世界をよくするのむるくするの自分次第」

∴ 日常性や匿名性に埋没して生きるような、

dasman (ひと「[4]=マン」。大衆の「一粒」) から脱却することができる

cf. [5] (19・20C、ドイツの哲学者・数学者) — 現象学の祖

… 「単なるあらわれ」にすぎない様々な現象についてはエポケー (「判断停止」。数学用語で「括弧に入れる」) という手法で排除することによって、「事そのもの」やそのようにあらわれる条件や構造を明らかにしようとする哲学

ex. 「リンゴに見えるからといってリンゴとは限らない。リンゴに見えるのはなぜだろうか?」。ハイデッガーやサルトルも、現象学派

3 [6] (20C、仏) (『存在と無』)

a 「[7]は[7]に先立つ」

… 各人が持ち味を自由に創造

ex. ハサミは本質 (ものを切ること) が実存 (ハサミであること) に先立つが、人間は実存 (自分ならではの今だけ) が本質 (その人が生きる意味や価値) に先立っている

b 投企 … 未来 (本質の形成) に向けて自己 (実存 = 今の自分) を投げ入れること

c 自由と責任 … 自由だからこそ、責任がある

cf. 「人間は[8]の刑に処せられている」

d [9] … 積極的な社会参加・参画

∴ 世界内存在としての「主体性」を発揮

ex. 市民運動で歴史に参加・参画

5 人道主義 (ヒューマニズム) … 現代の聖者たち

(1) [10] (19・20C、仏) — アフリカで医療とキリスト教伝道

… 生命への[11] (生あるもの全てを尊重)

(2) [12] (20C、印) — インド独立運動

1 [13] (真理の把持)

… 精神力や愛の力で勝利すること

2 [14] (自己浄化) ex. 禁欲

3 アヒンサー (非暴力・不殺生)

… 非暴力・不服従運動で英の植民地支配に対抗

(3) マザー = [15] (20C、旧ユーゴスラヴィア) — インドで慈善活動

cf. 「この世に不要な人間などいない」